

村民との対話「福島・飯舘村 再生の意味」D 村民の心の再生ネットワークの創造の司会進行をさせて頂き、改めて伝えることの難しさ、個々の受け止め方の違いを知りました。

村の現状や内情に関する基本的な部分の理解度が異なる方が多数集まる場での司会は非常に難しく、スムーズに進行することができませんでした。最大の誤算は、全員の自己紹介からはじめてしまったこと、1人1分で切り上げていただくように誘導できなかったことです。会場に集まられた方は村民の心の状況にたいへん関心を持っていらっしやいました。ただし、自らの思いを伝えたい人、現状を知りたい人、受け入れたい人、受け止めたい人、思惑は個々で異なり、当初の予定通りにはいきませんでした。

事前打ち合わせでは、「家長が家を守っていくという習慣のために若者や女性が直接政治面に絡んでいけない、みんなが踏み込むためにはどうすればよいか？対話の場にまだ出てこれない人たちを前に進めるようにどう後押しすれば良いのか？という部分にたくさん意見をいただきたい」とのことでした。本当は村の方々が本音で語り合える対話の場を持ち心の再生をするため、それを加速するために必要なことを議論したかったのですが叶わず。

自己紹介を一通り終えて感じたことは、都市と農村の温度差で、土地を受け継ぐ大切さがわからない、自分の不安な気持ちや思いを語るににくい、語ってはいけないという状況が村の方と来場者との間で共有できていないということでした。そこで、その2点に関して村の方から説明をいただき、質疑応答を行う形に変更しました。「先祖の血と汗のにじんだ土地を守ることが運命と思っている。不安を語るのは勇気がいること、責められている感覚を持ってしまい語るににくくなっている。家長が行政とやり取りをするため、女性や若者が気持ちを吐露することが難しい。それをくみ取ってもらうことも難しい」。また「国の予算も電話相談に限られ、自分たちの立ち位置がわかりづらい。だから若者の間で対話の会（本心を語る場）を持っている。」また、「水俣から学んだ地元学で「あるもの探し」（外から見た飯舘村の良いもの）をしている」などなど。貴重なお話をいただきました。

正直、心の問題に関してのセッションということで、心無い人や良かれと思っても過激な発言をされる方がいたらどうしよう？と不安に思っていました。村の方がご自身発信で「自分にとっての正義が必ずしも他の人にとっての正義とは限らない」「ただ聞いてほしいと思っている時にアドバイスをされるとそれが良いことでも受け入れられない」というようなことを伝えてくださったので助かりました。おそらく大変なご苦勞をされ、立ち上がろうとしていらっしやる方々だからこそ、訴えることができたのだらうと思います。

文面でもお分かりいただけたと思いますが、まとまりのない場でしたが、村の方々がいろいろと思いを伝えてくださり、また、書記の学生さんがしっかりまとめてくださり感謝しています。自分の中では良い経験になり、情報共有を行いたいと思って会場にいらした方々にとってはたいへん有意義な時間になったのではないかと思います。今後は、お互いに歩み寄る姿勢、相手を尊重する姿勢をもった方々が増えてくれることを望んでいます。